5月 渡子小だより

平成２２年
４月３０日

校長　長江留理子



野山の木々も新芽が出て，若葉が美しい季節になりました。音戸大橋では，つつじの鮮やかさが増しています。

新しい年度がスタートして，１ケ月が過ぎました。

学校では，子ども達の元気な声がこだましています。朝は，「おはようございます」と，気持ちのよいあいさつ，授業の始めと終わりには「お願いします」「ありがとうございました」，給食時間には「いただきます」「ごちそうさまでした」，職員室や保健室に入る時には，「失礼します」と，礼儀正しいあいさつが身についています。

学校は子ども達に，「学力」と「社会性」をつけ，社会で「生きる力」を育むところです。あいさつは社会生活の基本であり，人とのつながりのパスポートです。小さいときから，気持ちのよいあいさつを身につけさせていきたいと思っています。

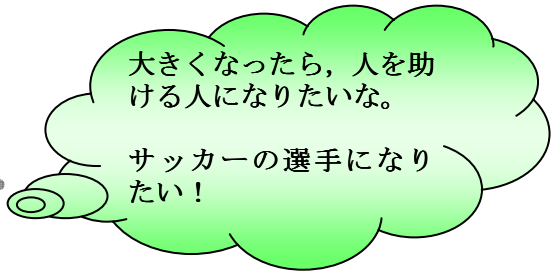
甲子園あいさつ

渡子小学校では「礼儀正しい子」を目標にかかげ，『甲子園あいさつ』に取り組んでいます。これは，甲子園球児のように，礼儀よくさわやかなあいさつをしようということで，

①立ち止まる　②あいさつをする　③おじぎをする

の３段階で行っています。徹底させるために，今年度からは，朝の挨拶当番の時や，先生や地域の方など，目上の方には必ず甲子園あいさつを・・・と，限定して取り組むことにしました。

心に夢を



さて，世の中は，激しく動き，いろんな事件などがおこり，子ども達の心の育ちに大きな影響を与えています。子ども達には夢をもって，前向きに生きてほしいという願いがあります。夢は子ども達が生き生きと生きていくための原動力だからです。

道徳教育は，子ども達が夢をもつための基盤を心の中に築くものなので，渡子小学校では，道徳を大切にしています。

夢は子ども達だけでなく，大人である私達にとっても大切です。私達は，いくつになっても夢を語り，明るい未来の姿を描ける人間でありたいものです。

夢を描き，工夫を重ね，ひたむきに努力することを通して，人格は磨かれていくからです。そうした意味で，夢や思いというのは，人生のジャンプ台のようなものですね。